

トラック輸送情報（平成20年6月分）

平成20年9月25日

国土交通省 総合政策局 情報管理部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：桑原、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

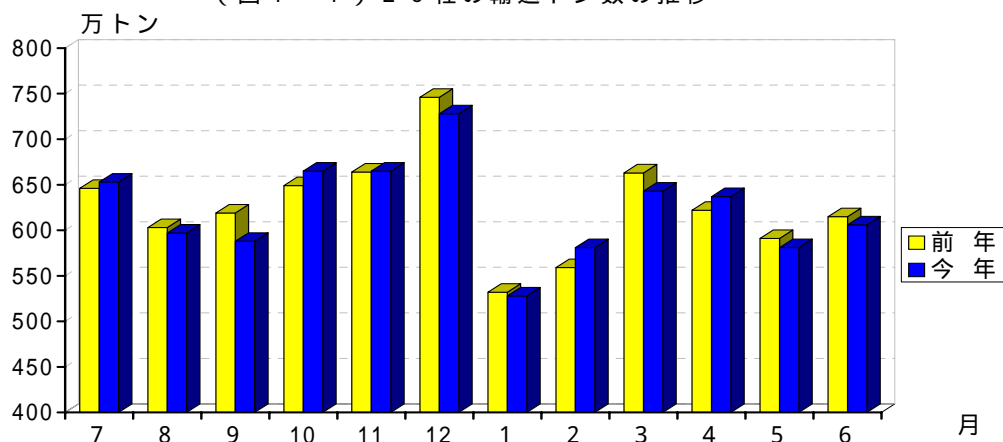
調査対象26社の本月の輸送量は、6,061,939トンで、前月と比べ総輸送量が約25万トン増加したため、前月比104.3%（季節調整済み99.0%）となり、前年同月との比較では、約8万4千トン減少したため、前年同月比98.6%の実績であった。

なお、平均稼働日数は24.4日で、前月と比べ1.1日の増加、前年同月と比べ0.6日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、248,440トンで、前月と比べ約1千トン減少したため、前月比99.6%となり、前年同月との比較では、約3千トン増加したため、前年同月比101.1%の実績であった。

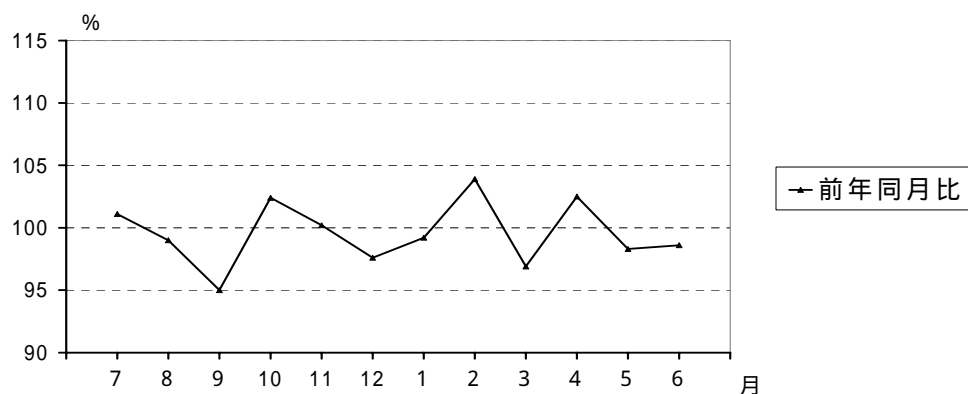
（図1-1、図1-2参照）

注）平成20年4月から貨物輸送の調査対象については、従来対象としていた7社の合併により26社となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



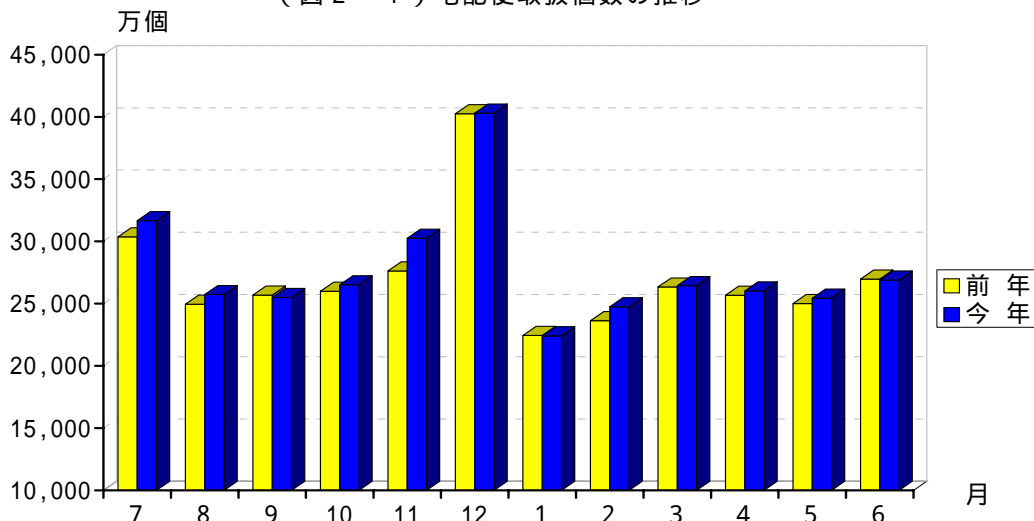
(2) 宅配便の概況

調査対象 20 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、268,921 千個で、前月と比べ 約 1,452 万個増加したため、前月比 105.7% (季節調整済み 99.0%) となり、前年同月との比較では、約 72 万個減少したため、前年同月比 99.7%の実績であった。

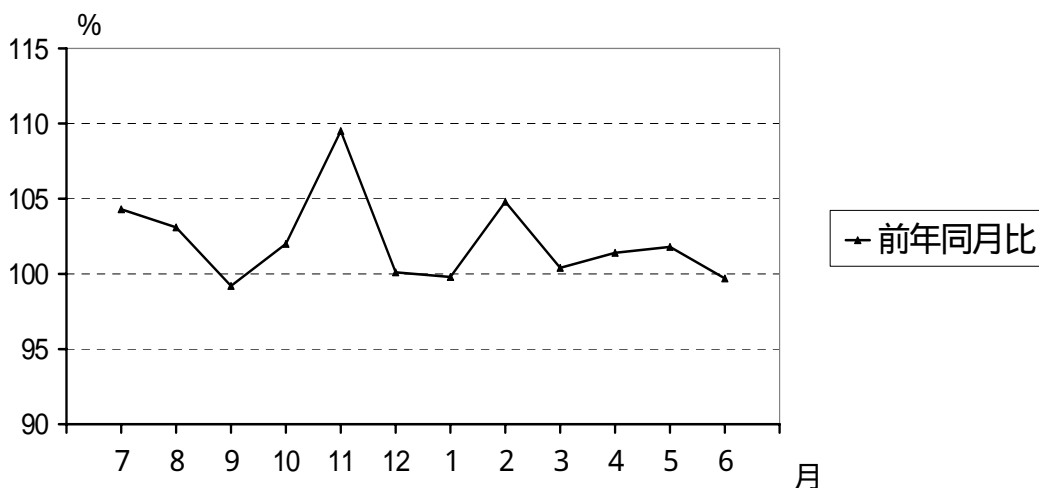
(図2 - 1、図2 - 2 参照)

注)平成 20 年 4 月から宅配便輸送については調査対象が 1 社増え、20 社となった。
対前年同月比並びに対前月比は、20 社ベースで比較している。

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、平均稼働日数が増加したこと等により、すべての品目で輸送量の増加がみられた。増加要因としては、工場・生産地からの貨物減がほぼすべての品目に共通してみられたほか、「金属製品」、「機械」、「食料工業品」及び「その他(宅配便)」では季節的需要減等も増加要因となっている。地域的には、「機械」、「食料工業品」及び「その他(宅配便)」がほぼ全国的に増加したほか、「金属製品」が関東、北陸信越、愛知で、「日用品」が北海道、東北、東京、関東で増加した。

前年同月と比べると、「機械」で若干の増加がみられたものの、他の品目では輸送量が減少した。工場・生産地からの貨物減が主な減少要因となっているが、「化学工業品」及び「食料工業品」では倉庫から出る貨物減、「日用品」では商社・問屋からの貨物減も要因としてあげられている。地域的には、「農水産品」が中国で、「化学工業品」が神奈川、関東、近畿で、「食料工業品」が東北、四国で、「日用品」がほぼ全国的に減少した。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因
	著増	増	変らず	減	著減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	3	15	1		青果物	中国	4
	金属製品	1	5	15		その他の金属製品	関東、北陸信越、愛知	4, 8
	機械	1	6	14		その他の機械、機械部品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州地方	4, 7, 8
	化学工業品		5	15	3	合成樹脂	神奈川	4
	繊維工業品		3	19	1			
	食料工業品		8	10	3	飲料、その他の食料工業品、加工食品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 8
	日用品		8	11	4	その他の日用品	北海道、東北、東京、関東	4, 5
	その他	1	7	12	2	宅配便 百貨店配送品	全国	5, 8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品			12	6	野菜、青果物	中国	4
	金属製品		1	15	5		中国	4
	機械	1	3	15	2	機械部品		4
	化学工業品		1	14	8	その他の化学工業品	神奈川、関東、近畿	4, 7
	繊維工業品			16	7		関東	4
	食料工業品		1	11	8	飲料、その他の食料工業品、加工食品	東北、四国	7
	日用品		1	6	15	書籍・印刷物、文具、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、中部地方、近畿、中国、九州	4, 5
	その他		3	7	12		東北、関東	4

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 807 社 / 調査対象事業者数 1,074 社）の輸送量は、前月比 103.2%、前年同月比 98.7%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	103.2%	109.0%	104.6%	103.2%	102.2%	103.4%	101.8%	103.4%	100.3%	94.4%	100.1%
前年同月比	98.7%	99.8%	98.5%	95.2%	102.7%	98.1%	96.7%	102.8%	95.9%	97.0%	103.7%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 109.0%、対前年同月比 99.8%であった。品目別には、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「食料工業品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量にも増加がみられた。一方、工場・生産地からの貨物減等により「木材」、「紙・パルプ」の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「揮発油」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 104.6%、対前年同月比 98.5%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「食料工業品」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「金属製品」の輸送量にも増加がみられた。一方、工場・生産地からの貨物減等により「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」の輸送量が減少したほか、倉庫への入出庫減等により「穀物」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 103.2%、対前年同月比は 95.2%であった。品目別には、「金属製品」、「化学肥料」等の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「木材」の輸送量が減少したほか、「その他の窯業品」、「食料工業品」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 102.2%、対前年同月比は 102.7%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「木材」の輸送量が増加した。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が減少したほか、倉庫への入出庫減等により「野菜・果物」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 103.4%、対前年同月比は 98.1%であった。品目別には、季節的需要増等により「金属製品」、「機械」、「日用品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「その他の農産品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 101.8%、対前年同月比は 96.7%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「機械」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量にも増加がみられた。一方、建設関連の需要減等により「金属製品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 103.4%、対前年同月比は 102.8%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物（主に西瓜）」、「食料工業品（飲料）」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したほか、工場・生産地からの貨物増等により「機械」、「化学薬品」の輸送量にも増加がみられた。一方、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」、「その他の石油製品」、「日用品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、「食料工業品」等の季節的需要による増加が見込まれるものの、全体の輸送量は減少傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 100.3%、対前年同月比は 95.9%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「その他の窯業品」の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「揮発油」の輸送量が減少したほか、「紙・パルプ」、「日用品」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 94.4%、対前年同月比は 97.0%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「金属製品」、「機械」、「化学肥料」の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「水産品」の輸送量にも増加がみられた。一方、建設関連の需要減等により「木材」、「砂利・砂・石材」、「セメント」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比 100.1%、対前年同月比は 103.7%であった。品目別には、「食料工業品」、「日用品」等の輸送量に僅かながら増加がみられたが、特に増加した品目はなかった。一方、季節的需要減等により「水産品（主にマグロ類）」の輸送量が減少したが、燃料費高騰による漁業への影響と思われる。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増		1				1	1				3
	減		2		1					1		4
2. 野菜・果物	増		5		1		1	6	1	3		17
	減		1		3		1			8		13
3. その他の農産品	増									2		2
	減					1						1
4. 畜産品	増							1				1
	減									1		1
5. 水産品	増	1						1		2		4
	減	2	2							1	1	6
6. 木材	増	2			2			2		1		7
	減	5	1	1	1			2		2		12
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1	1							1		3
	減	1			1					1		3
9. 金属鉱	増	2										2
	減						1					1
10. 砂利・砂・石材	増	15			1							16
	減	3	2		2	1	1	1		6		16
11. 工業用非金属鉱物	増	1								1		2
	減	1	2						1			4
12. 鉄鋼	増							5	1	1	1	8
	減	1	2		1		1	6				11
13. 非鉄金属	増						1			1		2
	減											
14. 金属製品	増	1	2	1	1	2	2	1		4	1	15
	減						3	4		2	1	10
15. 機械	増		2		1	2	3	4		4		16
	減		3				2	2		3		10
16. セメント	増	3	2		1	1		1		3		11
	減				3			1		5		9
17. その他の窯業品	増		1		1			1	1	1		5
	減		1	1	1			1		3		7

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増 減	1 3	1						1	1
19. その他の石油製品	増 減	1 1			2							1 9
20. コークス・ その他の石炭製品	増 減	1			3		1	3		1		1 9
21. 化学薬品	増 減						1	2	1			4 2
22. 化学肥料	増 減	1	2	1	1			2		5		12 2
23. その他の化学工業品	増 減						1	2		2	1	6 4
24. 紙・パルプ	増 減		1	1				3		1		6 11
25. 繊維工業品	増 減		1						1			2 1
26. 食料工業品	増 減	2	4			1	5	8	2	1	1	24 18
27. 日用品	増 減					3	1				1	5 12
28. その他の製造工業品	増 減		2	1			2	3		2		10 8
29. 金属くず	増 減									1		1 1
30. その他のくずもの	増 減	1										1 1
31. 動植物性飼・肥料	増 減	6	1						1	1		9 6
32. 廃棄物	増 減	1		1			1	2				5 5
33. 輸送用容器	増 減	1			1	1				1		2 3
34. 取り合せ品	増 減	1	2					2			2	7 2
35. その他	増 減			1	1	1	1			3		7 20